

令和2年度 東京都立中野工業高等学校全日制  
学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 東京都立中野工業高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 教務主任＝事務局長、教務部員3名 計4名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長2名、経営企画室長、主幹教諭(教務部担当)、主幹教諭(生徒部担当)、主任教諭(進路指導担当)、計7名
- (4) 協議委員の構成  
PTA会長、同窓会長、近隣中学校長、近隣小学校長、警察生活安全課長、近隣自治会、近隣地域センター関係、近隣企業社長 計8名

2 令和元年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他  
第1回 令和2年7月22日（金）内部委員6名、協議委員8名  
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面で開催。  
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出  
資料送付により、令和2年度学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題  
本校の現状と課題等説明後、書面で意見交換  
第2回 令和2年11月27日（金）内部委員7名、協議委員8名  
新型コロナ渦での教育活動、新しい日常に関する報告  
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議  
第3回 令和3年2月25日（木）内部委員7名、協議委員6名  
年間の教育活動に関する報告  
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議、報告  
次年度の協議会の日程（概要）確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他  
第1回 令和2年11月27日（金）内部委員3名、協議委員1名  
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察  
今年度の学校評価の実施に向けた検討  
第3回 令和3年2月25日（木）内部委員3名、協議委員2名  
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、報告内容の確認

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点  
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
  - ・12月 全校生徒 346／382人
  - ・12月 保護者全員 217／382人
  - ・12月 地域・住民 7人
  - ・12月 教職員 59／59人
- (3) 主な評価項目
  - ・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備
- (4) 評価結果の概要（学校及び校長への意見・提言内容）
  - ・新型コロナ禍にあって、分散登校や様々な行事が中止となっている状況で、学校に嫌気がさし、不登校の生徒が増えないようにして欲しい。
  - ・校内寺子屋事業を活用し授業の遅れを取り戻し、学び直しをすることは、非常に良い活動なので、決して講師に任せきりにするのではなく、教員もできるだけ関わりを持ち、地道な指導を継続して欲しい。
  - ・進路指導では、生徒の適性をよく見極め、生徒の適性にマッチした進路指導をして欲しい。
  - ・生活指導で重要な挨拶はマナーの基本です。是非、挨拶の励行を指導して欲しい。
  - ・特別指導の件数が減少しない。また、SNSなど同じ行為で特別指導になる生徒がいるので、生徒観察と注意喚起を継続的に行い、特別指導の減少を目指して欲しい。
  - ・依然として、校則違反や授業に積極的に参加しない生徒が散見される。授業規律の確立を徹底して欲しい。

- ・資格取得について、様々な資格取得の機会を増やして欲しい。
- ・教員がエンカレッジ生に対応するための研修をできるだけ多く実施して欲しい。

(5) 評価結果の分析・考察（学校及び校長への意見・提言）

- ・新型コロナウイルスの感染対策は来年度も実施する必要があると考えられるが、そのような状況下でも創意工夫して、できる限り、生徒が生き生きと活動できる場を作っていく。
- ・校内寺子屋事業の取組を振り返り、運営の改善を図る。教務、担任、教科、講師が良好に連携を図り、義務教育段階の学び直しや、学力不振による中途退学を防ぐ。
- ・第2学年全員を対象にしたインターンシップの実施し、実際に仕事を体験することで、職業観の形成、進路選択能力の向上、社会人としてのマナーの習得、コミュニケーション能力の育成を図る。
- ・校門での立ち番指導や健康チェック時での挨拶指導を徹底させる。また、来客者に対しても気持ちよく挨拶できる生徒に育成する。
- ・校則違反を繰り返す生徒に対する指導方法について見直していく。
- ・保護者連絡だけでなく、ホームページを活用するなど。資格取得についての情報を生徒・保護者へ発信する。工業系の資格・検定だけでなく、漢字検定や英語検定についても積極的に取り組む。
- ・エンカレッジ先進校や特別支援校から講師を招くなど、校内研修の充実を図る。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・警察の協議員からネットでの闇バイトや特殊詐欺など高校生が関わる犯罪が増えているという情報を得て、SHRなどで度々、生徒への情報提供を行い、犯罪の抑止に役立っている。
- ・新型コロナウイルスの影響で、同窓会の会合が持てないので、同窓会からの情報を生徒に発信できない。
- ・三密を防ぐためにも時差登校、分散登校は効果があると思う。オンライン学習について、生徒に不具合はないのか。また、オンライン学習が苦な教員がいると思うので、校内研修を行うなど、多くの教員が取り組める環境を構築して欲しい。
- ・地域の活動センターからは、高校生が関われるボランティアの紹介があったが、コロナ禍の影響で参加が難しいとのことであった。
- ・エンカレックススクールの完成年度を迎え、地域や中学校の理解が進み、入学してくる生徒もエンカレッジ生らしくなってきた。生徒の指導方針をもう一度見直す必要があるのではないかな。
- ・研究発表会などの機会は少なかったが、困難な状況にあっても、取組は続けて欲しい。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・挨拶やマナーができていた時もあったが、最近は、またできなくなっている。しっかり指導して欲しい。広報活動にも力を入れて、校内寺子屋や「学び直し」ができる学校として、地域へ強力にPRして欲しい。
- ・寺子屋事業では、生徒の選抜と、不参加者を出さないこと、また、いかに生徒を学習に集中させるかが課題である。
- ・進路活動を早めにスタートし、キャリア教育を充実させ、進路未決定者を出さない指導体制を構築して欲しい。
- ・学校評価は、生徒、保護者が回答しやすい、アンケート形式に変更すべきである。
- ・1, 2年生はものづくりに対する意識が高い生徒が多いが、3年生の意識改革が課題である。
- ・生徒・保護者の入学への満足度をもっと上げていきたい。
- ・生徒指導に不満をもっている生徒、保護者がいるので、指導方法について議論する必要がある。
- ・コロナ禍で、個別相談会以外で、どのように学校をPRしていくのかを検討する必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・学校経営推進部で学校経営計画を戦略的に推進していくための進行管理を行う。
- ・学び直しやきめ細やかな指導により基礎・基本の学力定着を図るとともに、多様な体験学習や特色ある専門教科を通じて、生徒が自らの適性を探し進路を選択させる。
- ・可能性はありながら力を発揮しきれずにいる生徒が、3年間を通して、社会人として必要な基礎・基本を身につけるとともに、ものづくりを通して自己の在り方生き方を見つめ、社会人として自立していく力を培うために、自らの可能性を信じてチャレンジさせる。

(2) 学習指導

- ・本校の特長である「食品工業類型のある工業高校」の強みをアクティブ・ラーニングに取り入れることで、独自性・新規性のある取組の研究を行い、学校全体でALを推進する雰囲気を作り上げた。また、全教員がICT機器を使った授業を積極的に推進し、さらに使用回数を増やした。
- ・今後は、コロナ禍でも有用であるBYODの活用で生徒自身のデバイスを使用した主体的な授業を実施していく。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で時差登校、分散登校となったが、オンライン学習も並行して行い、感染拡大防止と学びの保障の両立に取り組んだ。
- ・学力向上指定校に指定され、校内寺子屋を活用することで、放課後を活用した、学び直しや補習時間を確保することができた。

(3) 特別活動

- ・生徒が主体的に体育祭や文化祭などの行事を運営できるように指導していくことで、自主性を育む。
- ・年度当初に部活動体験を実施し、部活動加入率を高める。また、各顧問で協力しながら入部後も定着させるための工夫・努力を行う。

(3) 生活指導

- ・教員全員が生徒指導規定を熟知し、学校チーム一体となった指導を確立する。
- ・「あいさつを大事にして高校生らしい身だしなみ」「公共のマナーの向上」を推進し、全教職員一丸となって生活指導の徹底に努める。

(5) 進路指導

- ・入学から卒業後までをワンパッケージ化したキャリア教育の全体計画を周知し、全教員で具現化する。

(6) 健康・安全

- ・家庭とも協力して基本的な生活習慣が身につくように指導していくとともに、セーフティ教室、薬物乱用防止教室等を引き続き実施して、健康な生活が送れるよう指導する。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そうは思わない	分からない	無回答
6	2					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果  
なし

8 その他

- ・協議委員に授業見学の機会を設けられるようにする。
- ・学校評価アンケートの結果については、事前配布等で意見が述べやすいように工夫する。

## 9 学校評価アンケート集計結果

# 1 自分自身について

記	点	評価区分
Q01		
Q02	1	10
Q03	2	8
Q04	3	4
Q05	4	0
	5	0

	傾向表示			得点表示		各コメント
	自分自身について			今回	←	
<b>全生徒</b>	在籍生徒数	提出生徒数	提出率	今回	←	前回
	382人	351人	92%	57点		65点
						昨年度との比較ではさほど大きな変化は見られないものの、全体的にやや下がっている。

	傾向表示			得点表示		各コメント
	お子さんについて			今回	←	
<b>全保護者</b>	保護者数	提出保護者数	提出率	今回	←	前回
	382人	146人	38%	76点		81点
						やや下がっているものの、大きな変化は見られない。

	傾向表示			得点表示		各コメント
	生徒について			今回	←	
<b>全教員</b>	在籍教員数	提出教員数	提出率	今回	←	前回
	56人	54人	96%	59点		52点
						少しであるが、全体的に評価が、上がっている。

<b>考察</b>	1年生は比較的意識の高い生徒が多いが、2、3年生の意識が低いいため、昨年度より全体的に下がっていると思われる。ただ、1年生の結果だけ見れば、説明会等への取組結果の成果と考える。 保護者の意見は比較的肯定的であるが、昨年よりは低下している。					
-----------	--	--	--	--	--	--

## 2 先生について

Q06 先生は、互いに協力して日常の教育活動に当たっていると思いますか。	記	点	評価区分
Q07 先生は、授業は分かりやすく、きめ細かく指導をしていると思いますか。	1	10	そう思う
Q08 先生の授業内容は、あなたにとっては興味や関心があるものが多いと思いますか。	2	8	ややそう思う
Q09 先生は、授業内容で分からないことがあれば個別指導を行うなど、学力を身につけることに、熱心に取り組んでいますか。	3	4	あまり思わない
	4	0	そう思わない
Q10 先生は、学校の生活指導についての方針を明確に示していますか。	5	0	わからない

	傾向表示	得点表示	各コメント
<b>全生徒</b>	<b>先生について</b>		
	在籍生徒数	提出生徒数	提出率
	382人	351人	92%
			今回 53点
			1年生は満足度が高いが、 2, 3年生の満足度が低い。

	傾向表示	得点表示	各コメント
<b>全保護者</b>	<b>先生について</b>		
	保護者数	提出保護者数	提出率
	382人	146人	38%
			今回 61点
			各学年ごとの結果を見る 限り、大きな差はない。 ただ、全体的に下がって いることについては検証が 必要である。

	傾向表示	得点表示	各コメント
<b>全教員</b>	<b>授業について</b>		
	在籍教員数	提出教員数	提出率
	56人	54人	96%
			今回 70点
			質問ごとの意識に大きな 変化は見られないが、 全体的に評価が下がって いることは、指導する側とし ては課題である。 学校全体の問題として 考えていく必要がある。

<b>考察</b>	教員の指導については、生徒の意識が低い結果となった。これは教員側が真摯に受け止め、授業改善や学習指導について改善を検討する必要がある。保護者に関しても、生徒ほどではないが、やや低い現状から考えて、学校に対する期待も含めた希望の結果であると推測できる。 教員の結果は、決して低いわけではないが、生徒や保護者の意識をもとに検証していくことが必要である。
-----------	---

### 3 生徒指導について

Q11 基本的な生活習慣を身に付けられるような指導が行われていると思いますか。	記	点	評価区分
Q12 学校の進路指導の方針は明確に示されていると思いますか。	1	10	そう思う
Q13 進路指導について、ガイダンス等が計画的に行われていると思いますか。	2	8	ややそう思う
Q14 就職や進学のため、生徒一人一人の学力を伸ばす授業内容(カリキュラム)となっていると思いますか。	3	4	あまり思わない
	4	0	そう思わない
Q15 学校行事や部活動は、活発だと思いませんか。	5	0	わからない

	傾向表示			得点表示		各コメント
	在籍生徒数	提出生徒数	提出率	今回	前回	
全生徒	生徒指導について					
	382人	351人	92%	51点	←	65点
						昨年度から比べ、全体的に下がった。
	Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年	
	Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年	
	Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年	
	Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年	
	Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年	
	Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年	
	Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年	
Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年		
Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年		

	傾向表示			得点表示		各コメント
	保護者数	提出保護者数	提出率	今回	前回	
全保護者	生徒指導について					
	382人	146人	38%	61点	←	70点
						昨年度から見てやや下がっている。
	Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年	
	Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年	
	Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年	
	Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年	
	Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年	
	Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年	
	Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年	
Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年		
Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年		

	傾向表示			得点表示		各コメント
	在籍教員数	提出教員数	提出率	今回	前回	
全教員	生徒指導について					
	56人	54人	96%	56点	←	71点
						昨年度より下がっている。特にQ12、Q13、Q14の下がり方が大きい。
	Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年	
	Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年	
	Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年	
	Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年	
	Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年	
	Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年	
	Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年	
Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年		
Q11 前年	Q12 前年	Q13 前年	Q14 前年	Q15 前年		

**考察**

生徒、保護者ともに評価は高くなく、生徒の進路実現に向けてもっと学校側の努力が必要であることを示している。教員の結果を見ても、本校の進路指導について低い評価をつけていることより、本校キャリア教育や進路指導をもっと充実していく必要がある。

## 4 学校生活について

Q16 部活動や学校行事を通して、多様な生活体験ができていると思いますか。	記	点	評価区分
Q17 生徒の健康や安全について指導が適切に行われていると思いますか。	1	10	そう思う
Q18 学校は体罰や暴言をなくすために、積極的に取り組んでいると思いますか。	2	8	ややそう思う
Q19 生徒の抱える様々な悩みに応えられる適切な指導が行われていると思いますか。	3	4	あまり思わない
Q20 施設・設備等はよく整備され充実していると思いますか。	4	0	そう思わない
	5	0	わからない

	傾向表示			得点表示			各コメント
	学校生活について						
	在籍生徒数	提出生徒数	提出率	今回	←	前回	
全生徒	382人	351人	92%	49点	←	62点	昨年度より大きく下がっている。 1年生の結果は昨年度以上の意識があるが2, 3年生の意識が極端に低い。

	傾向表示			得点表示			各コメント
	学校生活について						
	保護者数	提出保護者数	提出率	今回	←	前回	
全保護者	382人	146人	38%	56点	←	70点	保護者の評価結果も大きく下がっている。

	傾向表示			得点表示			各コメント
	学校生活について						
	在籍教員数	提出教員数	提出率	今回	←	前回	
全教員	56人	54人	96%	63点	←	67点	教員の評価は昨年と大きく変わっていない。 施設については、校舎が古く老朽化であるため、やむを得ない部分がある。 来年度以降の質問から外すことも検討が必要。

考察	全体的に部活動や学校行事について、あまり活発に行われていないと感じている生徒、保護者が多い 学校生活について、1年の意識は高いが、2, 3年の意識が低いのが気になる。						
	P04						



## 5 連絡や説明について

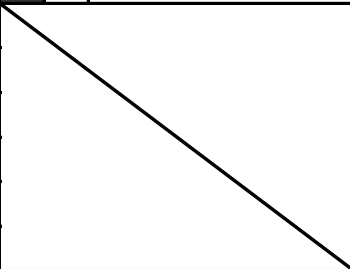
Q21 学校は保護者に対して、積極的に学校の様子等の情報を発信していると思いますか	記	点	評価区分
Q22 学校はライフ・ワーク・バランスの推進に積極的に取り組んでいると思いますか。	1	10	そう思う
Q23 お子さんと学校生活についてよく話していると思いますか。	2	8	ややそう思う
Q24 一日体験入学、学校説明会、授業公開など学校を紹介する機会は充実していると思いますか。	3	4	あまり思わない
	4	0	そう思わない
Q25 本校のホームページは充実していると思いますか。	5	0	わからない

連絡や説明について						Q22が極端に低くなっている。この質問は、昨年度から少し表現を変えたため、このような結果になったと考えられる。それ以外は、やや下がってはいるものの、大きな傾向の変化はない。
保護者数	提出保護者数	提出率	今回	←	前回	
456人	146人	32%	69点		67点	
全保護者						

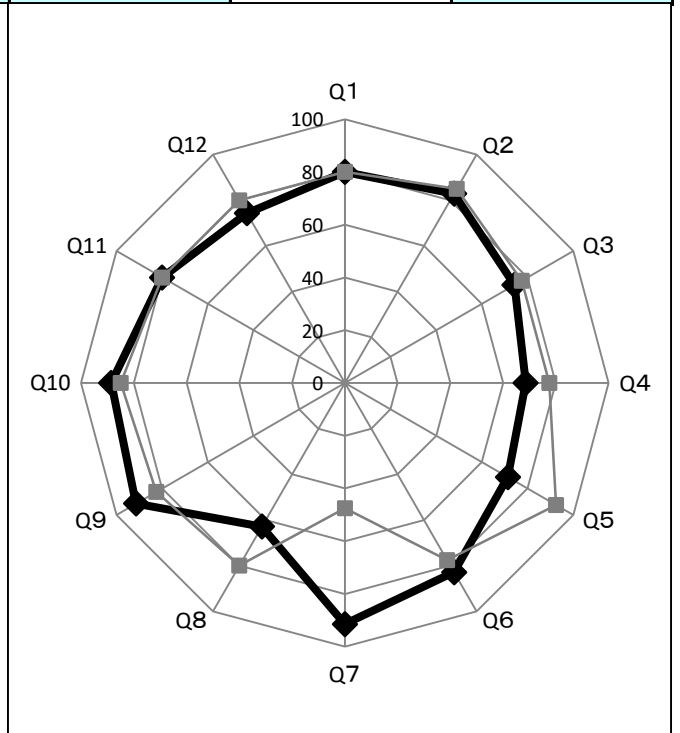
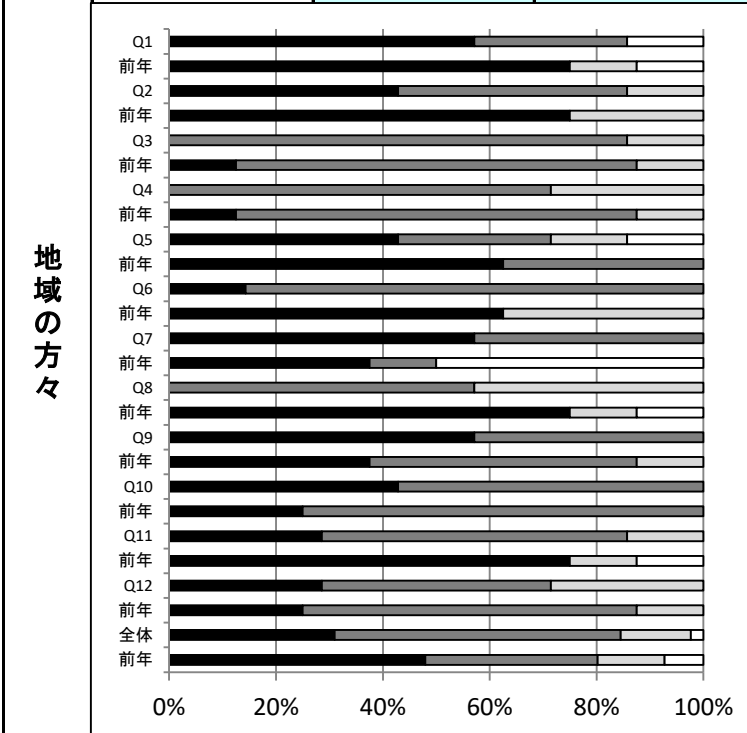
連絡や説明について						Q22の回答結果が低い。Q23の評価が昨年同様低くなっている。
在籍教員数	提出教員数	提出率	今回	←	前回	
51人	54人	106%	61点		73点	
全教員						

考察	Q22は働き方改革について知っていますかという質問であったため、直接比較はできないが、結果として、ライフワークバランスがとれていないという結果であった。
	Q23は保護者と教員との開きが大きい。保護者がある程度生徒とのコミュニケーションをとれていると感じているとしたら教員が何をもってそういう意識であるか、検討が必要である。

## 6 地域の方々へのアンケート

記	点	評価区分	
Q01			
Q02	1	10	そう思う
Q03	2	8	ややそう思う
Q04	3	4	あまり思わない
Q05	4	0	そう思わない
Q06	5	0	わからない
Q07			
Q08			
Q09			
Q10			
Q11			
Q12			

	傾向表示			得点表示		
	依頼者数	提出者数	提出率	今回	←	前回
		7人	7人	100%	79点	



昨年と比べ、Q5とQ8が大きく下がっている、逆にQ7が大きく上がったのは、行事が以前より活発になっていると認められているからだと考える。

考察

## 7 学校全体が取り組んでいく必要のあること

- 1 学習の強化
 2 生活指導の強化
 3 資格取得
 4 特別活動の活性化
 5 その他

区分	アンケート結果	コメント
生徒	一学年	
	二学年	
	三学年	
	全学年	
保護者	一年保護者	
	二年保護者	
	三年保護者	
	全保護者	
教員		
生徒 保護者 教員 総合計		
考察	生徒、保護者、教員全体で共通する意見は、生活指導の徹底と資格取得が多いことである。 学校生活では、ルールを守れることができるかどうかで続けられるかどうかが大きく関わってくる。 本校の生徒の中には、基本的な生活習慣が身につけていなかったり、ルールを守れない者もいる。 そういった生徒にいかにかちんとした学校生活を送らせるかが大きな課題である。 また、資格取得について、できるだけ多くの生徒にチャレンジしてもらいたいと考えている。そのため の徹底した指導ができるよう環境を整えていくことも重要な課題である。	

